The Association for Northeast Asia Ragional Studies

COMMENT

金　　光　林（新潟産業大学）

私自身、渤海国の地（中国吉林省）の出身であり、渤海国の歴史に関心があったので、両先生の発表内容にとても興味を持ち、よい勉強になった。そこで自分の不勉強を自覚しながら、先生の発表について次のようなコメントをしたい。

① 北東アジア（環日本海地域）における渤海国をテーマにした観光コースの開発構想とその実現の基本方針・計画に賛同し、この構想が今後現実化することを願いたい。

② 渤海国をテーマにした観光コースの現実化のためには、まず次のような課題を解決すべきだと思う。渤海国の領土は、現在の中国・朝鮮・ロシアに跨り、歴史上、日本とも深い関係があったので、渤海国は確かに北東アジアの国々の関心の対象である。それでも、現在のところ、渤海国の歴史は特定の学者・歴史愛好者以外の幅広い層の関心は乏しいように思われ、一方、渤海国の現存の遺物はそれほど多くはないし、各地に分散しているので、一般人にも魅力的な観光コースの開発に難点がある。渤海国の領土が現在の複数の国々に跨っていることにより、渤海国の国家的性格をめぐる国家同士の意見の食い違いもあるので、国境を跨る魅力的な観光コースの開発整備に手間が取ることも予想される。そこで、優れた文化遺産を今も多く残している高句麗と渤海国をセットとした歴史遺産観光コース、それにこれらの歴史遺産の観光を北東アジアの自然・民俗の観光とリンクし、この地域のそれぞれの国々の人たちが参加しやすい環境を作っていくと、この観光コースは現実性を増すと考えられる。

③ 渤海国をテーマにした観光コースを現実化していく過程で、まずは研究者・大学生による歴史研究・研修のコースとして渤海国遺跡を積極的に活用し、渤海国と周辺各国との交流をテーマにした多様な内容のイベントを催すのもよい方法だと思われる。日本の対馬・大阪などで催している朝鮮通信使関連のイベントの成功も参考になるところである。

④ 渤海国をテーマにした観光コースを現実化する手段として、北京→延吉（中国朝鮮族民俗観光）→長白山（自然観光）→敦化（渤海国遺跡観光）→寧安（渤海国遺跡観光）→牡丹江（中国東北特色観光）→北京、の観光ルート、新潟（日本）・束草（韓国）から海上で→ポシェット湾（ロシア極東特色観光）→琿春（渤海国遺跡観光）→延吉（中国朝鮮族民俗観光）→長白山（自然観光）→敦化（渤海国遺跡観光）→寧安（渤海国遺跡観光）→汪清（森林観光）→琿春（中国東北特色観光）→新潟（日本）・束草（韓国）、の観光ルートを実際に開拓してみることを提案したい。

NII-Electronic Library Service